

平成 24 年度第 3 回経営会議 結果概要

- 1 開催日時：平成 24 年 8 月 20 日（月）10:10～10:55
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 議事概要：以下のとおり

議題 1 予算編成プロセスの見直しについて

【西川財政課長】（資料 1 に基づき説明）

8 月 1 日の三重県行財政改革推進本部で、ご説明した検討WGの結果報告を踏まえて総務部案を作成したので、ご検討いただきたい。

【山川雇用経済部長】

平成 25 年度当初予算編成から実施するものと、平成 26 年度当初予算編成から実施するものが混在して分かり難い。

【嶋田総務部副部長】

今回の見直し案は二段階で実施する。まず包括配分制度を廃止し、シーリング制度にする。シーリングを設定する際に、一定の加算を行う重点化施策（仮称）を設ける。各部局は要求の際に「事業の優先度判断にかかる視点」を基に優先度判断を行う。なお、重点化施策（仮称）の設定は平成 26 年度当初予算編成からの実施になるため、平成 25 年度当初予算編成は、各施策一律のシーリングとなる。

【山口スポーツ推進局長】

- ①対象経費のうち大規模臨時的経費はどうなるのか。
- ②「各部局による優先度の公表」と「知事と部局長の協議」との整合性は。

【西川財政課長】

- ①年度間で事業費が大幅に変動する事業については、何らか大規模臨時的経費の取り扱いを残すような方向で検討している。
- ②部局長で付けた優先度は、議会などに公表した後、12月に行う予定の知事と部局長との協議により変更されることもあり得る。その過程も含めて公表することで、予算編成過程の透明度を高めていきたい。

【竹内環境生活部長】

- ①個別検討項目はどうなるのか。環境生活部の事情でいうと、私学関連の補助金だけで60億円あり、部全体の政策的経費の2/3を占める。
- ②資料で「成果向上余地」という用語がでてくるが、どういう定義か。

【西川財政課長】

- ①私学関連の補助金の件については、一つの考え方として、補助金の県単独の上乗せ補助の部分だけを政策的経費に位置付け、優先度判断することも検討している。
- ②「成果向上余地」は、県として、県民カビジョンに掲げた目標達成に遅れの生じている施策等には、財源を手厚く配分し、逆に目標を達成しつつ

ある施策等には財源配分で劣後すべきではないかという考えに立って記載している。

【藤本地域連携部長】

市町予算に影響のある事業は、事前に市町と十分に調整して欲しい。

【土井県土整備部長】

優先度を付ける事務事業のイメージは。(県土整備部も)道路事業、河川事業という単位で扱うのか。それとも箇所単位で扱うのか。公共事業の維持管理費は固定経費として配慮していただきたい。また、災害事業については別枠で調整か。

【西川財政課長】

公共事業の優先度の公表のやり方については、別途調整させていただきたい。災害事業については、別枠で調整していきたい。

【真伏教育長】

平成26年度当初予算編成から実施される重点化施策(仮称)と事業の優先度の関連性はどうか

【西川財政課長】

重点化施策(仮称)に決定した施策の事業は、必然的に優先度が高くなるべきと考えるが、結果的に、できあがりの予算でそうならない場合も想定される。そういった点も勘案して、重点化施策(仮称)の加算額に該当する事業は、「A+」という別扱いの優先度を付けられるようにする。

【稲垣総務部長】

本日のご意見を再整理して、もう一度ご検討いただきたい。また、最後の重点化施策(仮称)の話は、マクロの視点で重点化施策(仮称)を選定し、ミクロの視点で事業の優先度を付けるということ。

【鈴木知事】

引き続き議論を。事業の優先度は、知事と部局長の協議の場で、みんなで議論して決めていくことになる。対外的に説明する際には、資料はもう少し分かりやすくするとともに、県民の視点に立っての説明、見直しにあたっての課題、部局間の財源配分の調整方法も記載しておくように。